

学校概要

創立	109周年	学校長	石川隆一	副校長	渡辺正規	学期	2学期制	児童・生徒数	499人
学級数	一般級: 17	個別支援級:	2	主な関係校:		西中学校			

学校教育目標

○自ら学ぶ子ども【知】	主体的に考え、共に学び合う力を育みます。
○心豊かな子ども【徳】	自他ともに尊重し、たくましく生きる力を育みます。
○心身ともに健康な子ども【体】	自らの健康を保持増進しようとする力を育みます。
○社会に参画する子ども【公】	社会の一員として、他者と共働する力を育みます。
○変化を社会を生きる子ども【調】	広い視野をもち、未来に向けて挑戦する力を育みます。

学校の特徴

- 本校は西中学校と一小一ブロックの関係にある中学校併設型小学校であり、共通の学校教育目標のもと、9年間を見通した小中一貫教育を進めてきている。
- 横浜の中心地に近い立地環境にありながら、古くからの商店街や寺、神社も共存する地域にある学校であり、祖父母の代までさかのぼり多くの卒業生が在住するという、地域と共に歩んできた学校である。
- 授業づくりや指導力の向上に前向きな教職員が多く、「チーム」として協力し合い学び合い高め合う姿勢が生まれている。
- 小中一貫教育推進にあたっては、その意義を再認識し、学習指導、児童生徒指導連携、学校行事等での交流において、双方のねらいを大切にしながら、よりよい取組を工夫していく必要がある。
- 基本的な生活習慣、規範意識、より豊かな人間関係の形成等について、言語・コミュニケーション能力を軸に指導していく必要がある。

学校経営中期取組目標

- 児童一人ひとりを大切に活動した活力と魅力に溢れた学校づくり、9年間を見通して社会の変化に対応した生きる力の育成を目指した学校づくりを、「チーム西前」で一丸となって進めよう。
- ・西中学校との連携、協働によって、主体的に考え、判断し、学び合う子どもの育成と、教育課程の編成・検証を基にした授業づくりに取り組みます。
- ・一人ひとりのよさを生かし、「誰もが」「安心して」「豊かに」生活できる学級・学年・学校経営に取り組みます。
- ・学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、言語活動を大切にしながら学力の向上を目指すと共に、一人ひとりが自己有用感をもち、楽しく学校生活を送ることができるようにします。
- ・地域の教育力を生かした特色ある学校づくりを進めます。
- ・子どもたち及び社会の範となり学び合い高め合う教職員となり、チーム力を一層高め、信頼される教職員集団を目指します。
- ・重点取組分野、各教職員の自己目標に、可能な範囲で**具体的な目標**を設定し、一歩上の組織、自分を目指します。

小中一貫教育の取組

西中	ブロック	西前小学校	西中学校	(併設型小中学校)
9年間育てる子ども像	自ら学び、友達や社会とかかわり合いながら、ともに新しい社会を創ろうとする子ども 【小中共通の学校教育目標】(全体目標) ○自ら学ぶ子ども ○心豊かな子ども ○心身ともに健康な子ども ○社会に参画する子ども ○変化を社会を生きる子ども (重点目標) ◎主体的に考え、判断し、実践する力の育成 ◎よりよい人間関係を進んで形成し、社会創りに参画する力の育成			
自校の具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9年間一貫した教育を推進するために中学校と連携、協働して教育課程の編成・検証を行うと共に、「主体的に考え、判断し、学び合う子どもの育成」を研究テーマとして設定し、各教科等においてテーマを意識した授業を展開する。</li> <li>・中学生とふれあう活動を大切に、9年間を見通した教育課程の編成、学校行事等の充実を目指す。</li> <li>・児童会、生徒会の連携を図りながら基本的な生活習慣の形成、よりよい人間関係の構築に向けて指導する。</li> <li>・小中一貫教育の取組を通して、教職員間における「授業観」「児童生徒理解観」「評価観」等、「観」の共有を図っていく。</li> </ul>			

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	一人ひとりの児童の実態に合わせ、学習の楽しさを実感できる授業を進め、基礎基本の定着と学力の向上、言語活動の充実とコミュニケーション能力向上を図る。	①生活・総合、特別活動の小中一貫カリキュラム編成を行う。他の教科等については編成計画を立てる。視点を明確にした合同授業研究会等によって、学力の向上を図る。②重点研究のテーマを「主体的に考え、判断し、学び合う子どもをめざして」と設定し、互いの考えを伝え合い、双方向の学びが成立するような授業づくりを目指す。③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を日常的に行う。
豊かな心	自尊感情を育て、自他及び生きとし行けるものの命を尊重して行動する力を育てると共に、地域社会に関心をもち、まちな一員として行動しようとする意識や態度を育てる。	①自ら進んで挨拶する姿を目指して、学年に応じた指導を工夫する。②ふれあい活動・異学年交流を充実させ、よりよい人間関係の基盤を培い、社会性を高める。③地域とふれあう活動を大切に、「まち」や「人」とのつながりを活かした学習を展開する。④「思いや考えのやりとり」「深い学び合い」を大切に道徳の授業を、全教育活動との関連の中で工夫、実践していく。
健やかな体	基本的な生活習慣の形成に関する活動に全校で取り組む。また、楽しんで運動に関わることを通じて、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力を育成し、体力の向上を図る。	①養護教諭、学校医と連携し、保健委員会、学校保健委員会の活動の充実を図り、本校の健康課題について、学年に応じて指導を工夫する。心身の健康に必要な知識を教科学習や、日常の保健指導、食育等を通して指導する。②一校一実践運動に「縄跳び」を取り上げ、年間の計画的な活動を通して体力の向上を図る。③給食の後、全校で歯磨きタイムを設け、食後の歯磨き習慣を身に付けられるようにする。
児童生徒指導	児童理解及び情報の共有を基盤とし、一人ひとりを大切にたきめ細かい指導を徹底していく。また、規範意識の育成を図ると共に、「いじめ」を許さない環境作りを努める。	①子どもの気持ちに寄り添い、話をよく聴いたり、子どものよさをとらえて前向きになるような言葉かけをしたりして一人ひとりを大切にいく。②「西前スタンダード」を教職員で共有すると共に、子ども保護者とも共通理解を図り、連携して児童指導にあたる。③全教職員で情報を共有し、共通理解を図りながら組織として児童指導にあたる。
幼保小連携	幼保小の連携を推進するため、近隣幼稚園・保育園と、積極的な交流を図っていく。また、特別支援教育に視点をいた情報交流を密にし、円滑な接続を目指す。	①近隣の園との児童・園児の交流を通して、小学校と幼稚園・保育園の指導、支援の方針など相互理解を深め、より有意義な情報交換と円滑な接続を目指していく。②合同研修、授業・保育参観などを通して、職員交流を行い、相互理解を深める。③新1年生の学級編成に際しては、担当者が園を直接訪問したり、交流の際に話を聞いたりしてきめ細かい情報交換をし、よりスムーズな接続ができるようにする。
安全管理	児童理解及び情報の共有を基盤とし、一人ひとりを大切にたきめ細かい指導を徹底していく。また、規範意識の育成を図ると共に、「いじめ」を許さない環境作りを努める。	①年間の訓練を計画的に実施していくとともに、常に計画・指針についてチェックと見直しを図っていく。②小中連携の引き渡し訓練を実施し、緊急時における児童・生徒の安全確保と保護者や地域との連携をスムーズに行うための体制作りを行う。③消防、警察と連携した教職員研修も適時実施し、安全確保のためにすべきことの確認と実践力の向上を図っていく。
いじめへの対応	児童一人ひとりが、居場所をもち自尊感情をもてるような受容的な環境をつくる。また、すべての児童の「教育を受ける権利」を保障するための支援を確実に実施する。	①「いじめ防止基本方針」を学校経営の柱として位置付け、未然防止・早期発見・実態把握・対応方針と措置に、組織的・計画的かつ迅速に取り組む。②児童会の委員会活動、代表委員会等を中心に、子ども主体のいじめ未然防止活動を推進していく。③学校運営協議会や「まち懇」などで「いじめ防止基本方針」などを説明し、地域や保護者との共通理解を図る。
地域連携	地域の教育力を活かし、開かれた学校づくりに努めると共に、地域を愛する子どもたちを育成する。また、学校からの情報発信を積極的に行い、教育活動の活性化を目指す。	①小中合同の学校運営協議会や学校説明会、学校だより、HP等で学校経営方針、日々の教育活動等を積極的かつ具体的に発信していくとともに、学校評価アンケート等で挙げられた意見を、学校経営に活かしていく。②まちとともに歩んできた学校として、地域行事等にも子どもたちが積極的に参加できるようにしていく。③横浜の時間などにおいて、地域の特徴や材を生かした学習を計画し、地域への愛着を深められるようにする。
人材育成・組織運営	メンターチームを組織し、授業力・指導力向上のため主体的に指導改善を推進する研修を計画的に行う。また、職員の一線にあった校内研修の充実を図っていく。	①教職経験年数5年次以下の教職員を中心にメンターチームを組織し、月1回の活動を継続的かつ自主的に行い、先輩教員の支援を受けながら教師力の向上を図る。②学校の実態や教育改革の内容を受け、適時必要な研修を計画・実施していく。③月1回学年主任会を行い、ミドルリーダーが学校経営に参画できるよう工夫していく。